

容易あらざる只謀を以て召あられ不旗下に破成
けり可也と申され我光と申同言を破成則
志村九郎左衛門尉前をさし向けられ白山岩の城
警固し沼の平に押し守らせらる時は天正五年丑
五月也なりし

海味白岩軍第一謀略の事

さて岩根沢の要害を堅くする處海林七郎武政と
て南平十六年の若者有り家の子勝木九郎左衛
門に言ひし今夜白岩の城へ山形より大勢馳集り明
朝定ては方へ押寄せし戦有へきと覚ゆを知らば

今夜のうちに夜討し海味の要害を破り白岩
城をも打落さしとひききし作立九郎左衛門も大將昌
勝後にも心を評議一歩の上とせしとて試み
昌勝後にも申され味方の兵僅くは敵の大勢に取
かへる可きとて鬼角明經評議有とて
申言ひ七郎武政進んで申言ひて儀志をかか
れぬ近隣敵に知らず防たかかづし山形より
の後詰の来りしとて味方の兵形り無きとて昌勝
を破せしとて打出をん大將昌勝もたも同心して
取明敵の勢ひを破り後詰の来りしとて白岩を